

水産業再生ニュース（第 6 号）

平成 26年 9月12日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 7月の塩竈市魚市場の水揚げ状況

・平成26年7月の水揚げ量は、数量で1,524トン、金額では613,030千円で、前年同期と比較して、数量で429トン、金額では6,958千円の増加となりました。

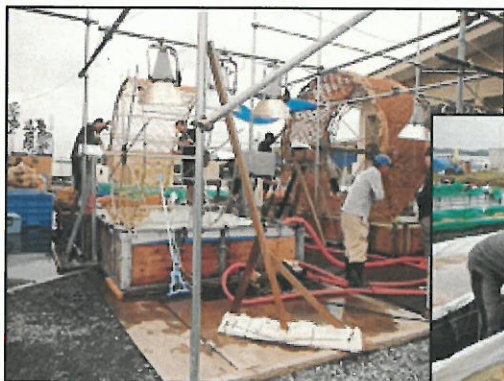
これは、仙台新港に水揚げされた遠洋底曳網による冷凍キンメダイ等の陸送の増加によるものです。
・復興交付金を活用し、塩釜に工場を新設した（株）明豊の自社所有船「第22明豊丸」が、冷凍カツオ等265トンの水揚げしました。漁船誘致に頼らない安定的な加工原料確保対策として期待されます。

塩竈市魚市場水揚げ状況（平成26年1～7月累計）

区 分	平成26年		平成25年		対 比	
	数量（トン）	金 額（千円）	数量（トン）	金 額	数 量	金 額
1～7月の累計	7,800	3,703,072	7,906	3,825,171	99%	97%
（うち 7月）	(1,524)	(613,030)	(1,095)	(606,072)	(139%)	(101%)

2 ノリの陸上採苗作業が始まりました

- ・今年も9月下旬からの、種網の松島湾への張り込みを前に、七ヶ浜の8月22日を皮切りに各地区でノリの陸上採苗作業が始まりました。
- ・昨年は水温が高く推移したため採苗の適温に達したのは9月下旬でしたが、今年は気温・水温とも順調に低下しており、陸上採苗も予定通り進んでいます。
- ・併せて、張り込みの際の高さの目安となる水深棒の調整作業も9月8日に終了し、張り込み解禁の9月20日を待つだけとなりました。



採苗水車による陸上採苗



養生水槽による芽出し作業



水深棒の調整作業

3 松島湾での種ガキ採苗状況

・松島湾での種ガキ採苗は、平成24・25年度と不調が続きました。本年度も7月から8月上旬にかけて小型幼生は確認されましたが、採苗器へ付着する大型幼生は見られませんでした。

しかし、8月18日の調査で大型幼生がこれまでより多数確認されたため、松島湾内では大多数の採苗器の投入が行われました。

採苗器への付着状況は、投入日や投入場所によって異なりますが、湾全体としては、概ね自家消費分は確保できた模様です。



採苗器に付着した種ガキ

4 漁場でのガレキの撤去を進めています

・震災直後から行われていました漁場でのガレキの撤去作業が今年度も7月下旬から始まりました。これまでの3年間で大多数は撤去されましたが、未だにコンテナや船外機船などが新たに見つかり撤去を進めています。

・今年度は8月末現在で大きな岩等も含め約672m³のガレキが既に漁場から撤去されました。



コンテナ撤去作業



撤去された船外機船